

厚生労働省三重労働局発表

令和4年11月28日

テレビ・インターネット 11月28日記者会見終了後解禁  
新聞 11月28日夕刊解禁

【照会先】

三重労働局職業安定部職業安定課

課長 藤木 真保

課長 補佐 堀 保

地方労働市場情報官 木下 欣也

(電話) 059 (226) 2305 (内線 228)

報道関係者 各位

## 「雇用情報モニター報告集計結果(令和4年度第3・四半期)」

三重労働局では、県内企業・経営者団体等に雇用情報モニターを委嘱し、企業活動の実績と見通し、雇用動向等についての報告を、年4回(四半期毎)提出いただいております。

このたび、令和4年度第3・四半期(令和4年10月～12月)実績見込み及び次期(令和5年1月～3月)見通しの集計結果を取りまとめましたので公表します。

### 調査結果 主な項目の概要

#### ○ 受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が24.2%で前期と比べ減少、「減少」が25.8%で前期と比べ増加、D I(「増加」-「減少」)は▲1.6となり前期と比べ26.1ポイント下降。次期見通しは8.2で上昇予想。

#### ○ 企業収益の実績見込みと今後の見通し

「増加」が20.3%で前期と比べ減少、「減少」が35.9%で前期と比べ増加、D I(「増加」-「減少」)は▲15.6となり前期と比べ26.7ポイント下降。次期見通しは1.5で上昇予想。

#### ○ 稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が22.2%で前期と比べ減少、「減少」が17.5%で前期と比べ増加、D I(「増加」-「減少」)は4.7となり前期と比べ6.8ポイント下降。次期見通しは11.1で上昇予想。

#### ○ 設備投資の見込み

「ある」が30.2%で前期と比べ1.5ポイント減少、「ない」が42.9%で前期と比べ8.0ポイント増加。D I(「ある」-「ない」)は▲12.7で前期と比べ9.5ポイント下降。

#### ○ 従業員の過不足判断

「過剰」は3.1ポイントで前期と比べ増加、「やや過剰」は3.1ポイントで前期と比べ減少、「不足」は6.3ポイントで前期と比べ減少、「やや不足」は26.6ポイントで前期と比べ増加。D I(「過剰」-「不足」)は▲26.7となり前期と比べ7.4ポイント上昇(不足判断が減少)。次期見通しは▲28.8で「不足」判断「過剰」判断ともに減少の予想。

#### ○ 雇用調整の状況

実施事業所数は24事業所(37.5%)で、前期の25事業所(39.7%)より減少。

## ○資料

別添 「令和4年度 雇用情報モニター報告集計」

## ○参考

- ・調査対象 地域経済にかかわりの深い企業の中から公共職業安定所長の推薦により労働局長が委嘱した、民間企業及び事業主団体
- ・調査方法 調査票により、モニターから公共職業安定所長に郵送等により提出
- ・調査時期 令和4年度第3・四半期（令和4年10月～12月）実績見込み及び次期（令和5年1月～3月）見通しについて
- ・モニター内訳 民間企業64社（建設業3、製造業46、運輸業2、小売業8、サービス業等5）事業主団体等8
- ・回答状況 民間企業64社、事業主団体等8団体

（注）集計結果には、業種別等の偏りがあると思われるのでご了承ください。

# 令和4年度 雇用情報モニター報告集計

令和4年度 第3・四半期  
三重労働局職業安定部職業安定課

令和4年度第2・四半期（4年7月～9月 以下前期）においては、多くの指標のD Iがプラスとなりましたが、第3・四半期（4年10月～12月 以下今期）においては、受注・生産状況や企業収益の状況等のD Iがマイナスとなりました。

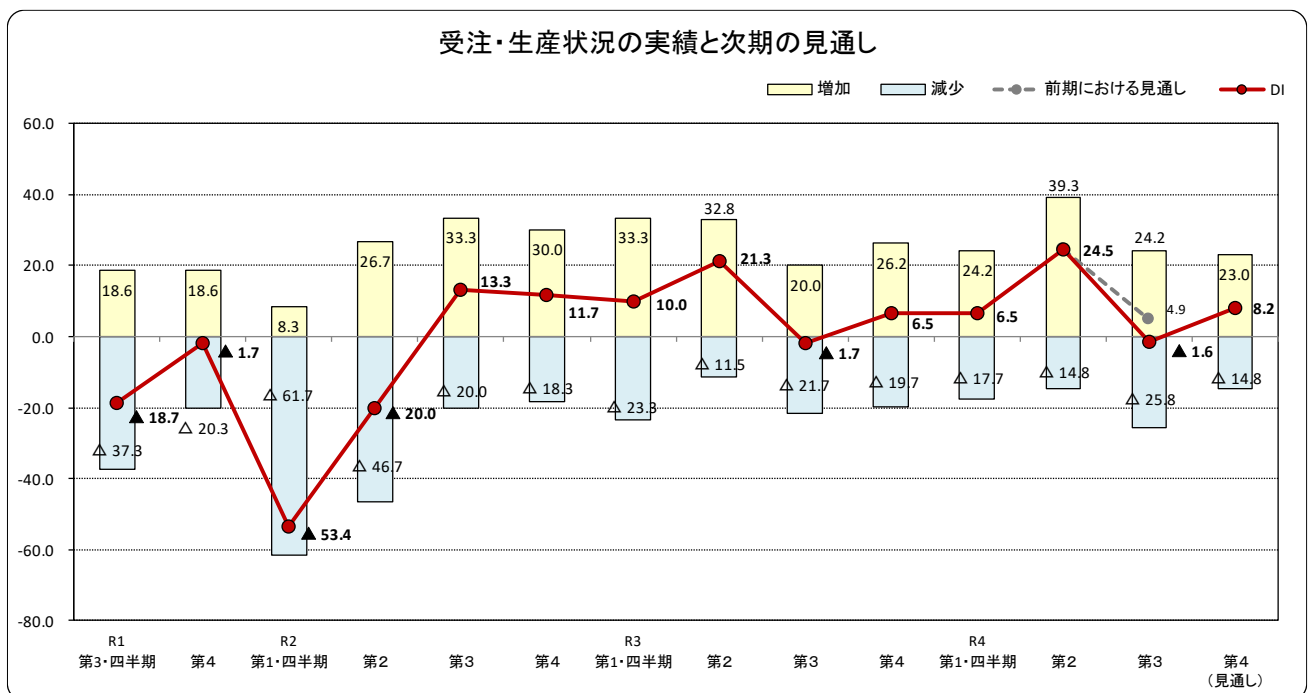
第4・四半期（5年1月～3月 以下次期）の予想においては、多くの指標で上昇の見通しとなっています。

## 1. 受注・生産動向について

### 【受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の受注・生産状況では、「増加」が24.2%、「減少」が25.8%で、D I（「増加」－「減少」）は▲1.6で前期と比べ26.1ポイント下降し、4期ぶりにマイナスとなりました。

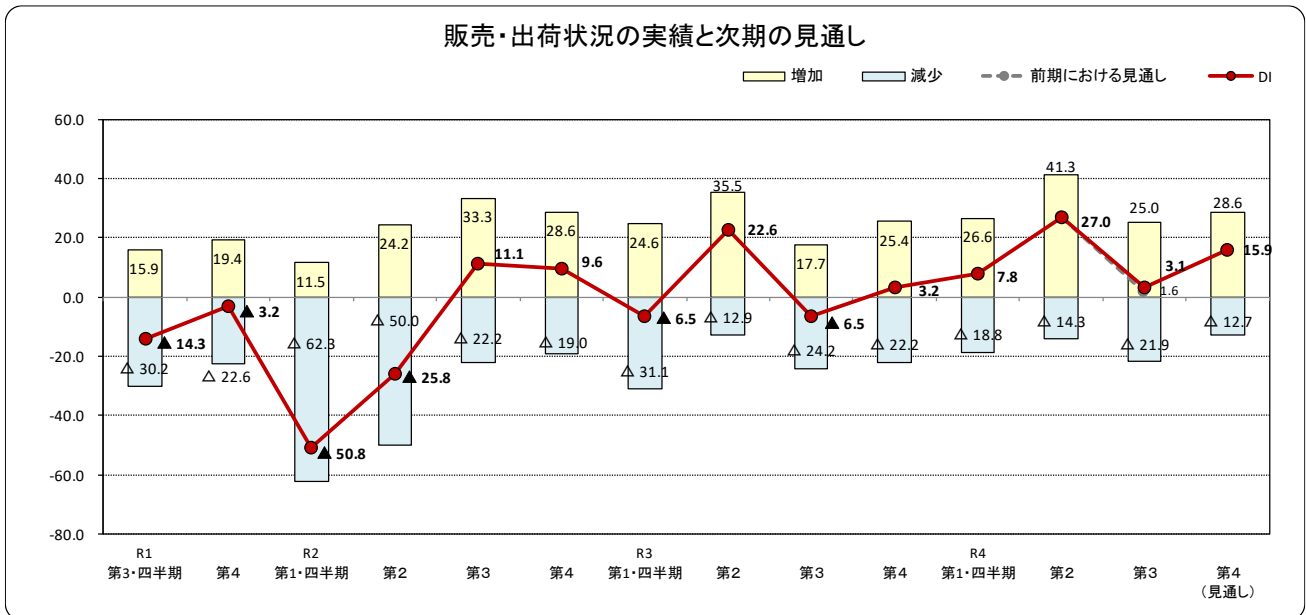
次期の見通しについては、D Iは8.2で、上昇する予想となっています。



【販売・出荷状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の販売・出荷状況では、「増加」が 25.0%、「減少」が 21.9%で、D I（「増加」-「減少」）は 3.1で前期と比べ 23.9 ポイント下降しましたが、4 期連続でプラスとなりました。

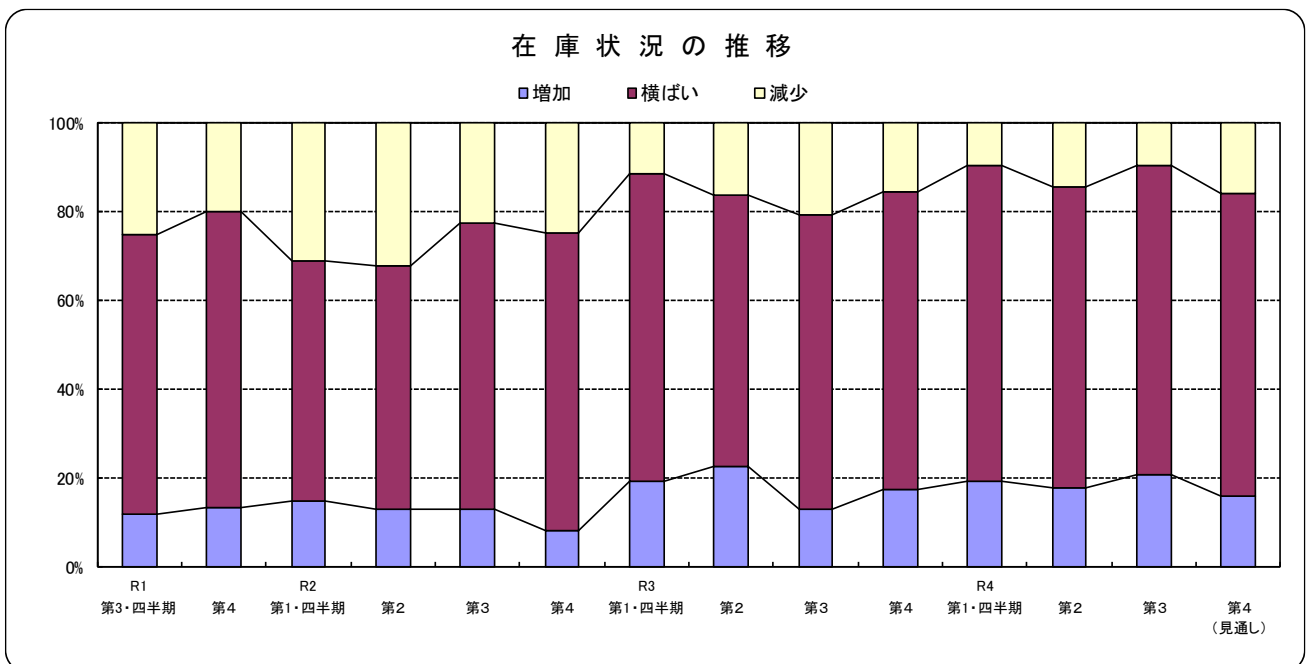
次期の見通しについては、D I は 15.9 で、上昇する予想となっています。



【在庫状況】

今期の在庫の状況についてみると、「増加」が増加、「減少」が減少、51 期連続して「横ばい」が最も多くなりました。

次期の見通しについては、「増加」が減少、「減少」が増加する予想となっています。

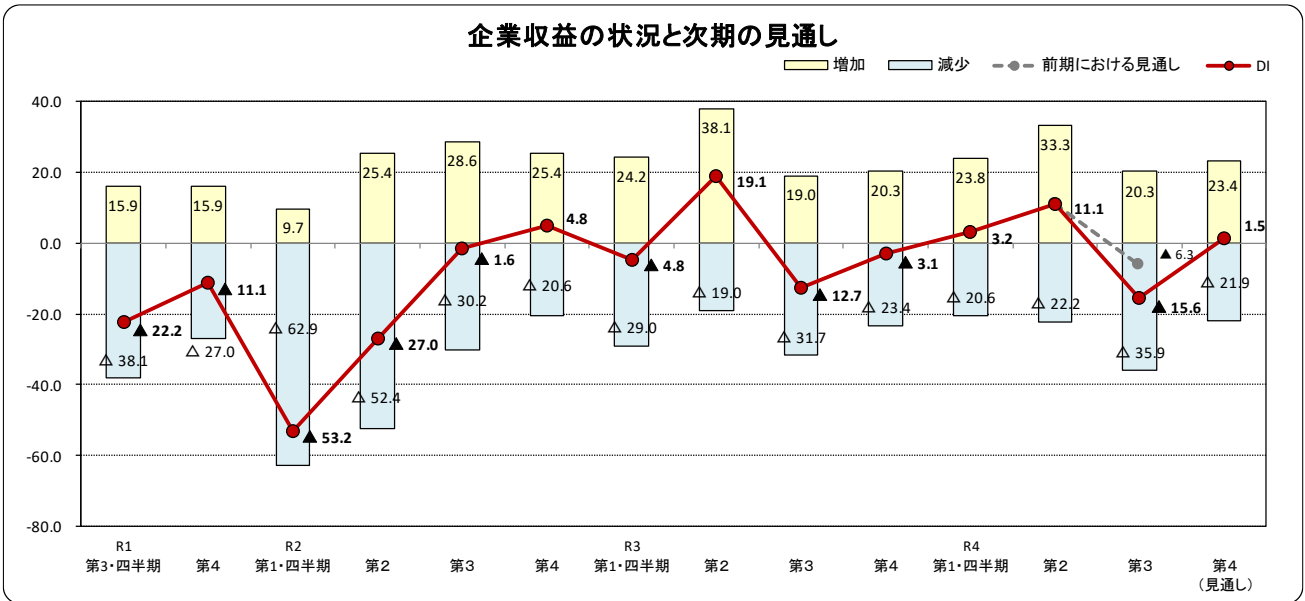


## 2. 企業活動の状況について

### 【企業収益の実績見込みと今後の見通し】

今期の企業収益の状況では、「増加」が20.3%、「減少」が35.9%で、D I（「増加」－「減少」）は▲15.6となり、前期と比べ26.7ポイント下降し、3期ぶりにマイナスとなりました。

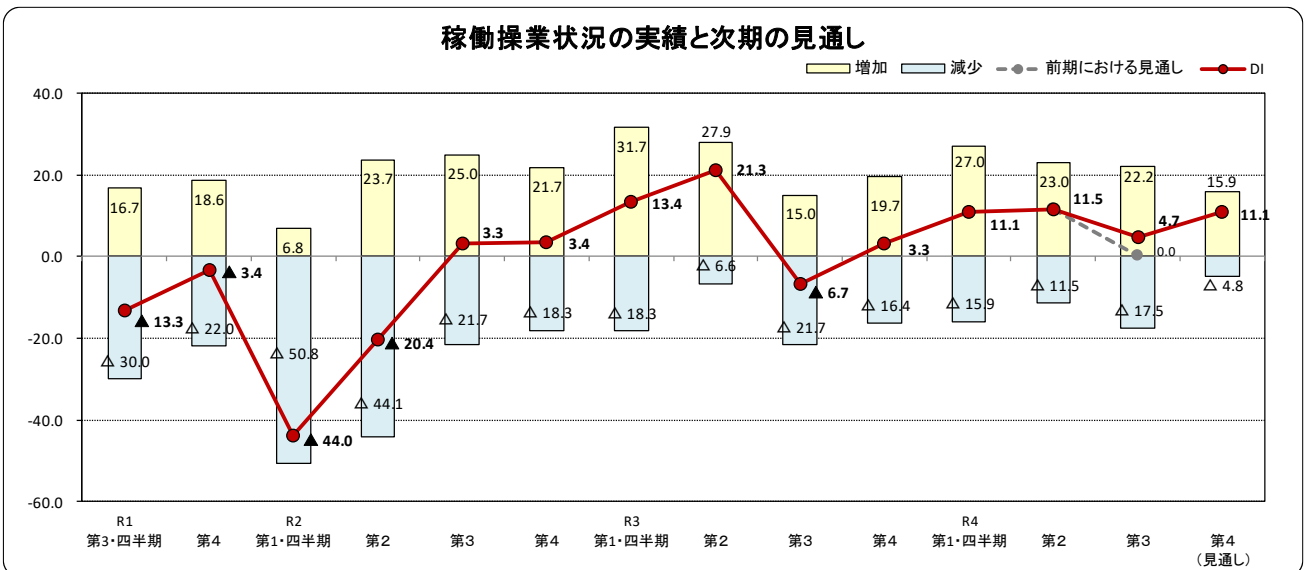
次期の見通しについては、D Iは1.5で、上昇する予想となっています。



### 【稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し】

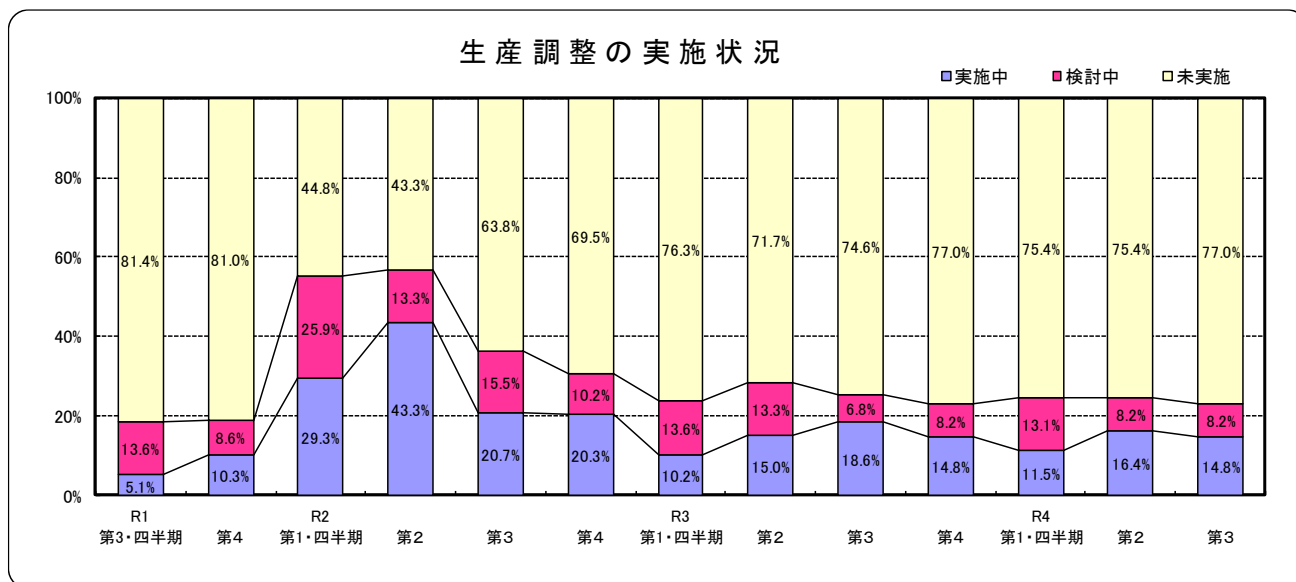
今期の稼働操業状況では、「増加」が22.2%、「減少」が17.5%で、D I（「増加」－「減少」）は4.7となり、前期と比べ6.8ポイント下降しましたが、4期連続でプラスとなりました。

次期の見通しについては、D Iは11.1で、上昇する予想となっています。



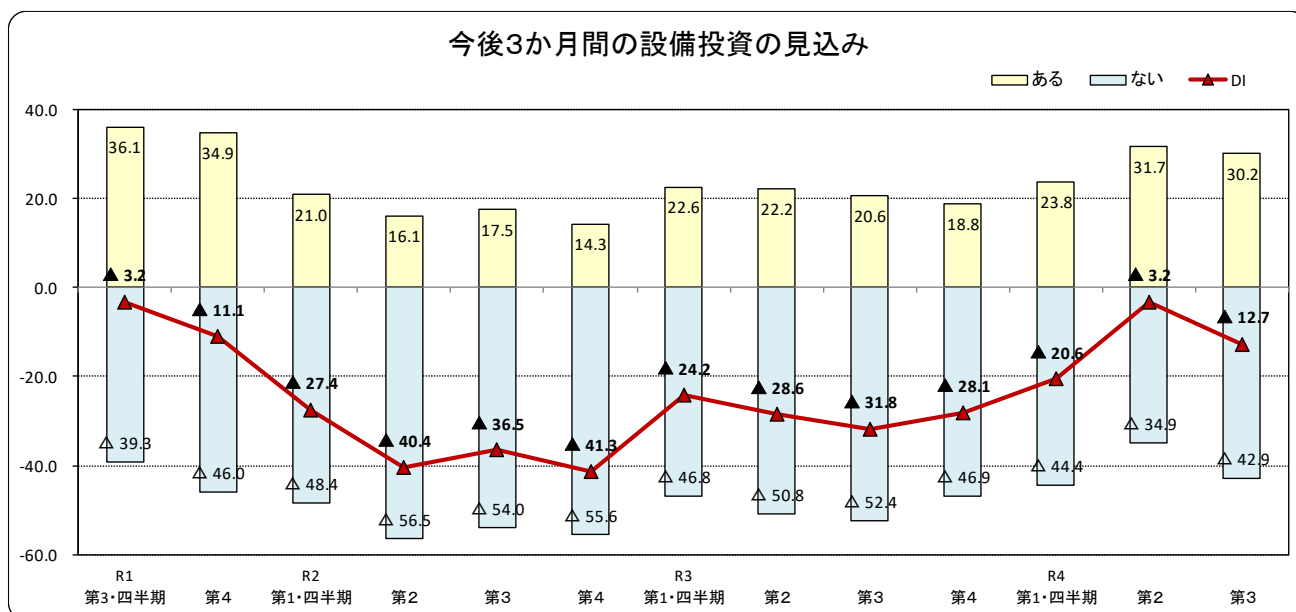
### 【生産調整の状況】

生産調整を「未実施」とした事業所は、今期は77.0%で前期と比べ1.6ポイント増加、「検討中」は8.2%で前期と同数値、「実施中」は14.8%で1.6ポイント減少となりました。



### 【設備投資の見込み】

今後3か月間の設備投資の見込みでは、「ある」とする事業所の割合は30.2%で前期と比べ1.5ポイント減少、「ない」とする事業所の割合は42.9%で前期と比べ8.0ポイント増加、D I（「ある」-「ない」）は▲12.7となり、前期と比べ9.5ポイント下降しました。

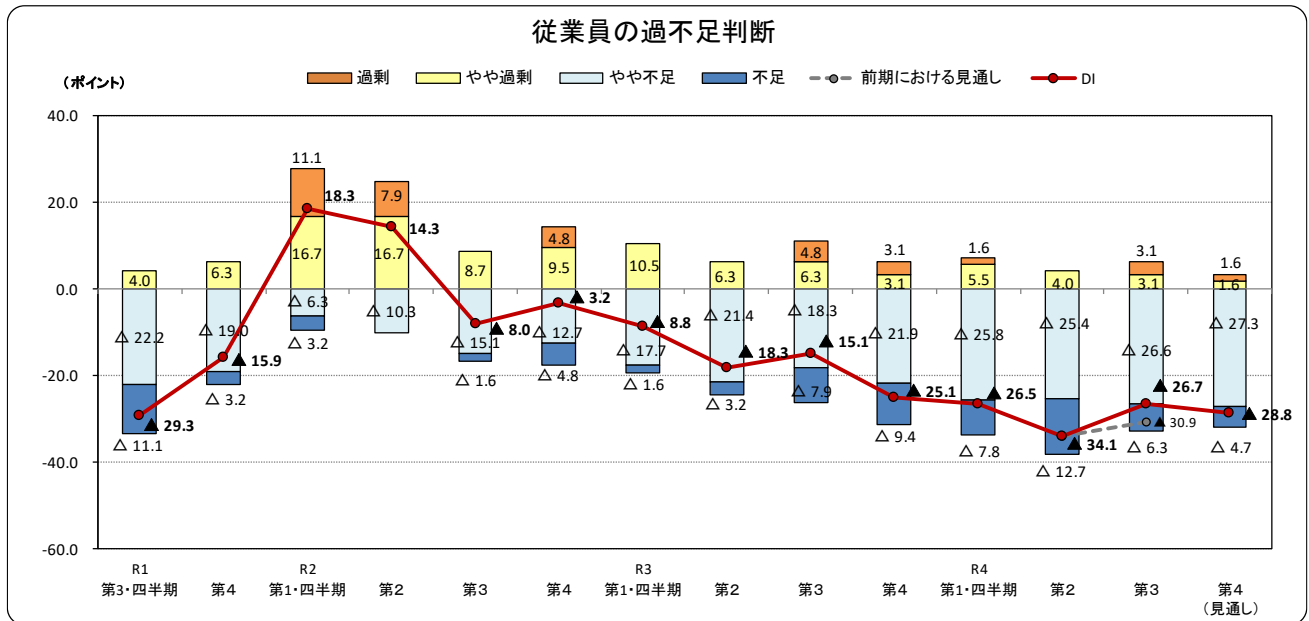


### 3. 雇用動向について

#### 【従業員の過不足判断】

「過剰」とする事業所は 3.1 ポイントで前期と比べ 3.1 ポイント増加、「やや過剰」とする事業所は 3.1 ポイントで前期と比べ 0.9 ポイント減少、「不足」とする事業所は 6.3 ポイントで前期と比べ 6.4 ポイント減少、「やや不足」とする事業所は 26.6 ポイントで前期と比べ 1.2 ポイント増加し、D I（「過剰」-「不足」）は▲26.7 となり、前期より 7.4 ポイント上昇（不足判断が減少）しましたが、9 期連続で不足判断が過剰判断を上回りました。

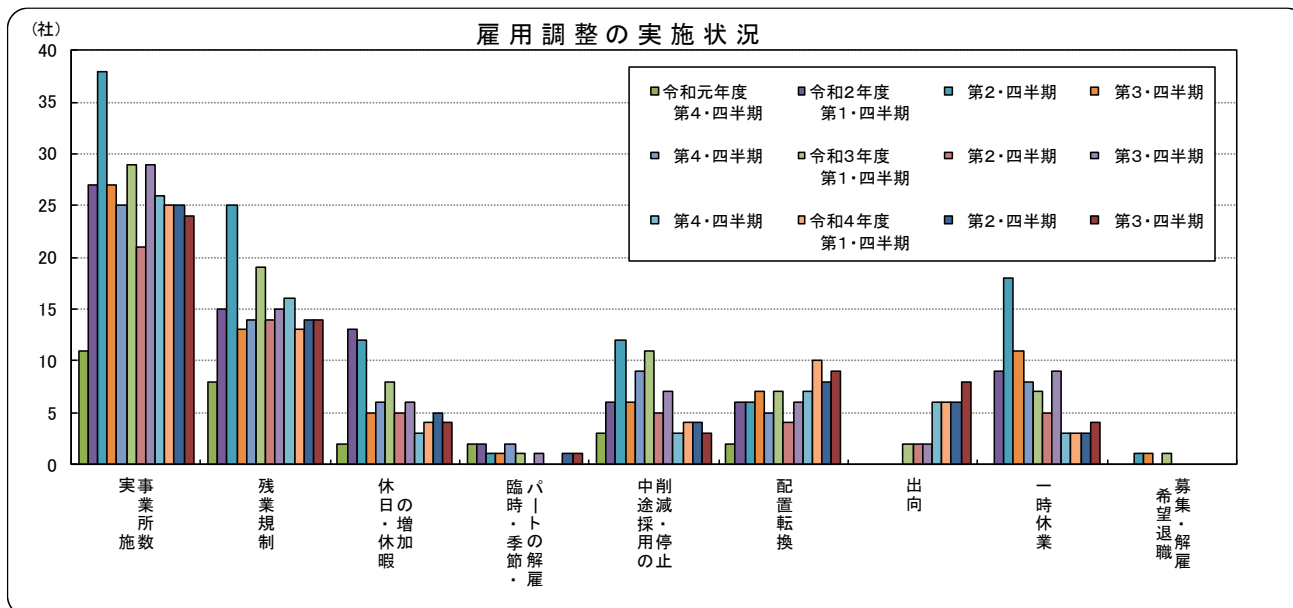
次期の見通しについては、D I は▲28.8 で、不足判断、過剰判断ともに減少する予想となっています。



#### 【雇用調整の状況】

雇用調整を実施している事業所数は、今期は 24 事業所 (37.5%) で、前期の 25 事業所 (39.7%) より 1 事業所の減少となりました。

	合計	実施なし	予定あり	実施事業所数	残業規制	休日・休暇の増加	臨時・季節・パートの解雇	中途採用の削減・停止	配置転換	出向	一時休業	希望退職募集・解雇
令和元年度 第4・四半期	62	51	0	11	8	2	2	3	2	0	0	0
令和2年度 第1・四半期	61	25	9	27	15	13	2	6	6	0	9	0
第2・四半期	59	18	3	38	25	12	1	12	6	0	18	1
第3・四半期	63	33	3	27	13	5	1	6	7	0	11	1
第4・四半期	62	34	3	25	14	6	2	9	5	0	8	0
令和3年度 第1・四半期	62	30	3	29	19	8	1	11	7	2	7	1
第2・四半期	63	34	8	21	14	5	0	5	4	2	5	0
第3・四半期	63	32	2	29	15	6	1	7	6	2	9	0
第4・四半期	64	32	6	26	16	3	0	3	7	6	3	0
令和4年度 第1・四半期	64	36	3	25	13	4	0	4	10	6	3	0
第2・四半期	63	35	3	25	14	5	1	4	8	6	3	0
第3・四半期	64	34	6	24	14	4	1	3	9	8	4	0



<主なコメント>

- コロナの感染状況やウクライナ戦争の影響により、業務用の動きは未だ回復していないものの、全体的に受注は入っている。円安により輸出が増加。原材料、燃料が短期間で高騰しており、先行きの目処が予想できず値上げの検討も難しく、収益に大きく影響している。熟練者を中心に人材不足傾向。最低賃金の度々の大幅アップは、収益が少ない零細企業には大きな痛手。（協同組合）
- 為替の影響により仕入れ原価が高騰、売価を上げたことで売り上げにどういった影響が出るか不安。物流経費も増加し、収益確保が厳しくなりそう。（製造業）
- 半導体を中心とした部品の供給不足の状況が継続しており、納入先の生産が一部停止、生産量減・在庫増の影響を受けている。原油高騰に伴う輸送費増、ウクライナ戦争の影響等、不透明な状況が継続される見込み。（製造業）
- 部材入手難による生産遅延、部材・燃料・電気・輸送費等の価格高騰が続いており、収益悪化の懸念がある。（製造業）
- 前期は夏休み期間が含まれたが、コロナの感染者増により低迷し、業績としては芳しくなかった。今期は旅行割の実施とコロナ感染者の下げ止まりにより、宿泊客数は大きく伸びると予想される。次期は第8波への危機感と、通常1月中旬～2月が閑散期であるため、宿泊客は減少すると予想。（宿泊業）
- 米中貿易摩擦やコロナ禍で先送りされた設備投資が再開されたのに加え、先端技術向けの生産設備の増強により、計画以上に需要の回復が見られる。一方、中国のロックダウンやウクライナ危機によりサプライチェーンへ影響が出たり、素材の高騰も影響を及ぼしている。（製造業）
- 日用品のコロナ特需の反動を受け、前期までは受注・生産・販売・出荷の減少が続いていたが、今期はやや持ち直しの傾向にある。国内工場の稼働・操業度は増加傾向だが、原料費や電気料金の値上がりりが収益を圧迫している。（製造業）
- 半導体等による遅延が徐々に解消され、受注・生産は増加傾向にある。（製造業）